

平成29年度の基本方針(事業計画)と自己点検・自己評価と外部評価について

重点目標	関連する評価指標		平成29年度目標値	平成29年度実績値	達成率	自己点検・自己評価	外部評価
	基本的運営方針	評価項目					
<p>1 地域の情報拠点としての情報資源整備</p> <p>(1) 課題解決のためのサービスや短期的な要望への対応と、山梨関係資料の収集・保存など基本的蔵書の充実を均衡させた蔵書構築を進める。</p> <p>(2) 地域情報を得るためのポータルサイトの内容を見直し、ホームページからの情報発信機能を強化する。</p>		(3) 貸出	400,000点	379,523点	94.9%	<p>個人への貸出数及び県内外図書館への貸出数は、ほぼ目標水準を達成したが、減少傾向は続いている。さらに各種の取り組みによって、地域の情報拠点として利用されるよう努めていく必要がある。</p> <p>所蔵資料数もほぼ目標水準に達しており、特に山梨県関係資料の収集は、出版情報の収集や寄贈依頼等が成果を上げ増加した。新館開館から5年が経過した現在、新たな利用者のニーズを把握しつつ適切な選書に努め、さらに蔵書の充実を図っていく。</p> <p>ポータルサイト「発見!やまなしナビ」の見直し及びコンテンツの更新を行ったが、HPトップ及びポータルサイトトップページのアクセス数はそれ程伸びなかった。特にポータルサイトについては目標水準に届かなかったが、ホームページ全体のアクセス数は増えている。新たに開始したSNSの活用等により、さらにも気軽に情報にアクセスできる環境を整えていく。</p> <p>電子書籍の利用は目標水準を下回る状況が続いており、資料選定の見直しも含む新たな取り組みの必要がある。</p> <p>山梨県関係資料の保存及び情報提供をする上で重要なデジタルアーカイブについては、工程を分担して作業の効率化を図ったことにより、目標水準を大きく上回った。今後も引き続きデジタル化し蓄積していくが、それに加え積極的な活用を促していく必要がある。</p>	<p>全体的に利用面での数値は高い値を示しているが、目標を達成していない項目も多く、基本的なサービスについて目標達成の努力が必要である。</p> <p>デジタルデータの作成・登録を含む図書館資料の整備は順調であるが、活用面で課題が残る。団体や個人からの寄贈受入など、収集のしかたも含めて、活用につながる取り組みを期待する。</p> <p>子どもの本の収集は目標に達しているが、子ども読書支援センターの活動基盤を強化するためにも、一層の充実に取り組み必要がある。</p> <p>貸出件数やホームページアクセス数等の基本的サービスに関わる指標で達成度が下がっており、重点的な取り組みによる改善が必要である。</p> <p>電子書籍の利用は毎年低下しており、原因を探り、選書の見直しや活用方法の検討などを行う必要がある。</p>
		(4) 相互貸借	5,500点	5,261点	95.7%		
		(5) 所蔵資料	930,000点	918,213点	98.7%		
		(8) 地域資料寄贈受入	1,250冊	1,565冊	125.2%		
		(9) ホームページアクセス	266,500件	252,475件	94.7%		
		(10) メディア掲載等	400件	344件	86.0%		
		(15) 電子書籍	500件	286件	57.2%		
		(18) 子ども読書支援センター資料	2,750冊	3,011冊	109.5%		
		(23) 地域資料	83,849冊	83,939冊	100.1%		
		(24) 「発見!やまなしナビ」アクセス	2,500件	1,681件	67.2%		
	(25) デジタルアーカイブ作成	4,200枚	7,179枚	170.9%			
<p>2 レファレンスサービスの周知とサービス対応能力の向上</p> <p>(1) 県民が図書館の資源を有効に活用し、知識や情報を得るためのレファレンスサービスを充実させ周知する。</p> <p>(2) 課題別、対象別のサービスを充実させるため、専門分野に対する職員の対応能力向上を図る。</p> <p>(3) 利用者満足度を高めるために、窓口業務の効率化や要員の適正配置を進め、サービス態勢を強化する。</p>		(1) 入館者	910,000人	922,617人	101.4%	<p>レファレンスサービスの利用件数は高水準を維持し、アンケート等によれば満足度も高いが、認知度は依然として高いとはいえない。個々の図書館サービスについての具体的な内容や、それらをどうやって受けとることができるかを周知し、より有効に図書館の資源が活用されるよう取り組み必要がある。</p> <p>図書館サービスの充実をはかるためには、コンテンツの収集やサービス内容の多様化など提供内容の充実に加え、それらを利用者に提供する体制も強化する必要がある。引き続き、職員の各種研修への積極的な参加や自己研鑽などによる個々のスキルアップを図っていく。</p> <p>来館者数は多く、レファレンスサービスなど窓口サービス業務の利用件数も増加しており、個々の利用者への対応が十分に行われなくなる懸念がある。業務の効率化や、適切な職員配置等により、職員が業務しやすい環境作りを行い、利用者へのサービス向上につなげていく。</p>	<p>全体として高い利用水準だが、いくつかの評価指標で前年度実績を下回り、サービスが利用しやすいものになっていないのではないかとの懸念がある。</p> <p>レファレンスサービスの認知度は以前より高いが、さらに周知し、効果的に活用されることが望まれる。</p> <p>館外でのサービス活動として講師派遣が指標となっているが、低迷している。待つのではなく積極的に出て行く姿勢を持って欲しい。また、必要とされる内容について再確認し、ふさわしい職員を養成していく必要がある。</p> <p>多様なサービスを展開しているが、周知の努力が不足している。広報活動や外部の団体等との連携を進め、広く県内に図書館サービスを広げていくことが望まれる。</p> <p>効果的なサービス提供のために職員の能力向上に努めると共に、適正な職員配置により全体としてサービスの質の向上に努める必要がある。</p>
		(2) 登録者	10,000人	8,482人	84.8%		
		(3) 貸出	400,000点	379,523点	94.9%		
		(4) 相互貸借	5,500点	5,261点	95.7%		
		(9) ホームページアクセス	290,000件	266,444件	91.9%		
		(10) メディア掲載等	400件	344件	86.0%		
		(11) 見学者	2,050人	2,318人	113.1%		
		(12) 職場体験・インターンシップ	20日	20日	100.0%		
		(13) 調査相談	64,000件	69,025件	107.9%		
		(14) レファレンスツール作成	85件	70件	82.4%		
		(16) 講師派遣	18件	13件	72.2%		
		(17) 主催研修参加者	1,100人	1,185人	107.7%		
		(18) 子ども読書支援センター資料	2,750冊	3,011冊	109.5%		
		(21) 企画事業参加者	10,500人	8,274人	78.8%		
	(24) 「発見!やまなしナビ」アクセス	2,500件	1,681件	67.2%			
<p>3 交流事業・イベント・交流ルーム利用者との連携による図書館資料の利用拡大</p> <p>(1) 外部の関係団体や図書館利用団体等との新たな連携について、その手法を検討するなど、成長する図書館として機能拡大を図る。</p> <p>(2) 交流事業・イベント等と連動した資料展示の実施など、図書館で活動する様々な団体と連携し、図書館の資料や機能の活用を進める。</p>		(1) 入館者	910,000人	922,617人	101.4%	<p>入館者は高水準を維持し目標値を達成している。また、交流ルームや多目的ホールの利用も大幅に増加し、利用者数や稼働率も目標値を大きく上回った。多様な県民活動・交流の場として有効に利用されていると考えられる。</p> <p>図書館企画事業は、開催場所が多目的ホールとなる事が多く目標値を下回った。事業の参加ニーズは高いため、次年度以降は、収容人員が多いイベントスペースを会場として確保し、多くの県民に参加機会を提供できるよう計画的に事業を実施していく必要がある。</p> <p>HPアクセス件数及びメディア掲載等件数は、若干目標値を下回っているが、図書館のさまざまな活動が伝わる情報発信としての広報活動は重要であり、情報更新や情報提供、メディアへの働きかけにさらに力を注ぐ必要がある。</p> <p>施設利用者が、イベント参加で完結することなく図書館資料も利用するように、今後もやまなし読書推進活動事業への参加や各種イベントとの連動に積極的に取り組む必要がある。また、収蔵資料の充実を務めながら、交流事業・イベント等と連動した資料展示などの機会を増やして図書館資料の活用へとつなげていく必要がある。さらに県内の文化施設との連携や、広報活動によって多様な利用形態や多くの方の来館を維持していく。</p>	<p>入館者数や施設の稼働率は高い水準を維持しており、多くの県民に多様な活動の場、交流の場として活用されている点は高く評価できる。また、アンケート調査等によると、利用者満足度も高く、快適に利用されているといえる。</p> <p>施設全体の利用率は高いが、図書館の企画事業への参加者が減少しており、企画内容の検討や積極的な広報活動によるアピールなどが必要である。また、企画に際しては、外部の諸団体や教育機関と連携し、より効果的な内容にする努力も必要である。</p> <p>定例おはなし会への参加者が大きく減少しているなど、子ども読書支援センターの活動にも新たな工夫が求められる。利用者ニーズの確認や企画内容の検討、幅広い広報等に取り組む必要がある。</p> <p>図書館協力員の活動は堅調であり、様々な分野の事業によって図書館の運営を支える力となっていることを高く評価する。広く活動内容を紹介するなどして、より一層の活性化を期待する。</p>
		(3) 貸出	400,000点	379,523点	94.9%		
		(5) 所蔵資料	930,000点	918,213点	98.7%		
		(6) 図書館協力員活動	1,400回	1,426回	101.9%		
		(7) 企画事業参加者	10,500人	8,274人	78.8%		
		(9) ホームページアクセス	266,500件	252,475件	94.7%		
		(10) メディア掲載等	400件	344件	86.0%		
		(14) レファレンスツール作成	85件	70件	82.4%		
		(18) 子ども読書支援センター資料	2,750冊	3,011冊	109.5%		
		(19) 交流エリア利用	125,000人	128,667人	102.9%		
	(20) 交流エリア稼働	71.0%	75.0%	105.6%			
	(22) 読み聞かせ	3,000人	2,318人	77.3%			